

自分だけの新しい表現

現代に至るまで、全国でも突出して多くの重要無形文化財保持者（人間国宝）を輩出してきた多治見市。市内では現在も、古くからある陶芸技術を再評価し、その技を鮮やかに甦らせるべく陶芸家達が作陶を続け、独自の表現を生み出しています。

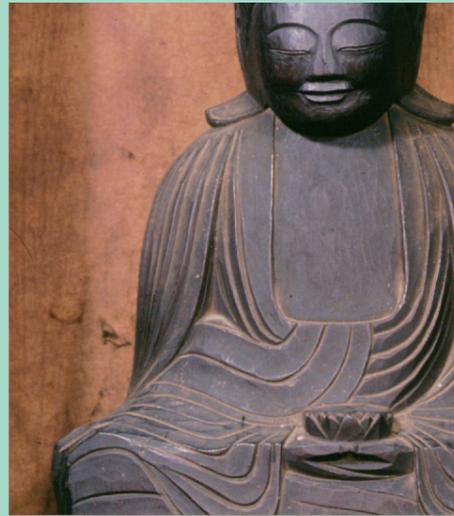
無形文化財の保持者達は、ひとりの作家として、さまざまなやきものや美術・工芸等から影響を受け、研究を重ね、「自分だけの新しい表現」を目指しています。作家が何から影響を受け、作陶と向き合ってきたのか、作家自身の言葉とともに紹介します。



鈴木藏《志野茶碗》1994年



鈴木徹《緑袖花器》2022年



たじみのぶんかざい かわいい！



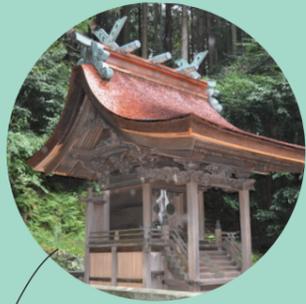
自分だけの「かわいい！」を展示室でみつけよう

ほかにもあります！みにいける、たじみのぶんかざい



国宝建造物
永保寺観音堂
室町時代前期
永保寺所有

檜皮葺の屋根の軒先が伸々とした反り上がりの曲線を描き、上屋と裳階の均整のとれた安定感のある姿は、この様式の優れた建築と評価されています。



多治見市有形文化財（建造物）
甘原神明神社本殿
江戸時代（再建）
神明神社（甘原）所有



多治見市有形文化財（建造物）
多度神社本殿
江戸時代（再建）
多度神社所有



国名勝
永保寺庭園
鎌倉時代末期
永保寺所有

永保寺の開祖・夢窓国師は、中近世の日本庭園の発達に大きく貢献した作家としても知られています。永保寺庭園はその代表作とされています。

東濃地方の数々の寺社建築の彫刻を手がけた野村作十郎（1815—1871）。甘原神明神社・多度神社の彫り物は野村作十郎による作品です。

企画展パンフレット

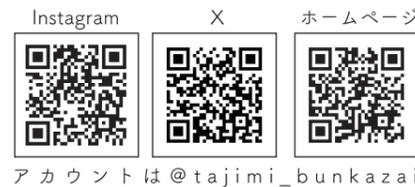
「かわいい！たじみのぶんかざい」

開催期間 令和6年7月22日（月）～12月20日（金）

開催場所 多治見市文化財保護センター

発行 多治見市教育委員会 文化財保護センター

発行部数 600部（印刷費用75,000円）（税抜き）



アカウントは@tajimi_bunkazai

主要参考文献

『多治見市史』上 多治見市 1980年

『美濃窯の焼物』多治見市 1993年

『日本陶磁5000年の至宝』愛知県陶磁資料館 2002年

荒川豊蔵『私の履歴書』日本経済新聞社 1984年

『志壘 人間国宝 鈴木藏展』日本経済新聞社 2001年

『角川日本陶磁大辞典』角川書店 2002年

水尾比呂志『日本造形史 用と美の意匠』武蔵野美術大学出版局 2002年

謝辞（敬称略）

永保寺 笠原神明宮 湊雲寺 滝呂区民会館 二福寺 普賢寺 多治見市美濃焼ミュージアム 高木典利

多治見市文化財保護センターでは、1年に2回の企画展を開催しています。SNSやHPで情報を発信していますのでぜひフォロー＆いいね！をお願いします。

多治見市文化財保護センター

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-26

TEL(0572)25-8633 FAX(0572)24-5033

URL <https://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

多治見市にある指定・登録文化財の数は105件。それらひとつひとつの文化財が、その時々で大切に保護・保存・修理・継承され、その背景には人々の営みの歴史があります。

窯づくり、土を成形した工人たち。新しい表現のかたちを求め続ける陶芸家。祈りの場を守り伝えてきた人々。季節のうつろう姿を木々や植物から味わい、技術・技法に敬意をはらった人々の歴史を、たくさんの人に知ってほしいという願いとともに『多治見の文化財』改訂第10版が令和6年3月に発行となりました。本展では、この書籍で紹介している文化財を中心に展示しています。

自分だけの「かわいい！」という解釈を大切に鑑賞すると、きっと展示品との接点が見つかるはずです。文化財に数居の高さを感じている方々も、カジュアルな気分でお楽しみください。

1 とむら 吊うかたち、装うかたち

古墳の副葬品は、権力者たちが権威の象徴として用いたもの。それらのかたちには異国の空気が漂い、現代の私たちの感覚にもフレッシュな造形です。

中でも虎溪山一号古墳から出土した須恵器・皮袋形瓶は、中に液体を入れた皮製の袋を模したかたちと言われており、須恵器ならではの硬く締まったシャープな容姿でありながら、まるで液体で満たされたかのような写実性のあるかたち。また、耳環やネックレスなど、古墳の副葬品にはアクセサリーも出土しており、装うかたちとしての高貴な美しさを楽しむことができます。



《須恵器・皮袋形瓶》
岐阜県記念物「虎溪山一号古墳」
出土遺物 古墳時代後期



《耳環》
多治見市記念物「池田1号古墳」出土遺物 古墳時代後期

2 くらしのかたち

山茶碗は、平安時代末期から室町時代にかけての約400年間にわたって、東海地方の山という山で作られたやきもの。量産雑器とも呼ばれ、庶民の日常のくらしに使うためのやきものだったと考えられています。作り手の手跡が生き生きと残されたかたちには、素朴な魅力があります。

また、弥生時代に稲作文化の発展とともに作られるようになったやきものにも、くらしの中で用途を持って使われた実用性のあるかたちとしての美しさがあります。



《山茶碗・片口碗と皿》
多治見市記念物「明和1号古窯跡」
出土遺物 鎌倉時代



《壺形土器》
多治見市記念物「喜多町西遺跡」出土遺物
弥生時代末期～古墳時代初期

3 産地のかたち

貴族の間で貴重とされていた中国製の白磁や青磁を写したかたち、上流階級の愛好品としても作られた高級陶器、唐物と呼ばれる中国陶磁を写した茶陶など、需要に応えるために生まれたやきもののかたち。時代が変わるたび、権力を持つさまざまな階層の求めに応じるかたちでやきものの流行は移り変わってきました。美濃の工人たちによる技法・技術の変化の過程を、ひとつひとつのやきものから観察することができます。



《御深井釉摺絵皿》
多治見市記念物
「小名田窯下古窯跡群」
出土遺物
江戸時代

多治見市有形文化財
《生田1号窯出土灰釉広口瓶》
平安時代



《鉄釉天目茶碗》
多治見市記念物
「小名田窯下古窯跡群」
出土遺物 室町時代



《銅緑釉瓶・口縁部》
岐阜県記念物「妙土窯跡」
出土遺物 室町時代

4 祈りの場に ささぐ

木の素材を活かした抽象的な作像を得意とした円空ならではの造形が台座によく現れている普賢寺の《円空仏》。余白を活かした構図と墨の濃淡を使い分けた表現が見事といえる海北友松筆の花鳥画《紙本墨画はは鳥図》。各寺院で収蔵されている品々には、祈りの場を大切に守り続けてきた人々による歴史があり、華やかさはないもののそのどれもが静かで優美です。



多治見市有形文化財
《円空仏》
円空作
江戸時代
普賢寺蔵



多治見市有形文化財
《紙本墨画はは鳥図》(部分)海北友松筆
桃山時代 二福寺蔵(会期中展示入替あり)

5 装飾の開花

明治政府の推進した殖産興業の成果として、パリやウィーン等の国際的な博覧会での評価を高めた日本の陶芸は、自由で新しい造形を求めていきます。

作り手が職人から作家へと移行しはじめた明治期、釉下彩と呼ばれる技法を用いた製品や写実性の高い染付磁器で高い技術力を余すことなく発揮した西浦焼。その西浦家に伝わる古文書3,821点が多治見市指定文化財として登録されており、本展では、西浦焼の作品を展示・紹介しています。技術の近代化が進む一方で、登窯による焼成と手描きの絵付けを継続した「根本焼」。その製品は「ハレの日」用の高級食器として流通し、淡いブルーの艶やかな手描きの絵付けが魅力的です。



西浦焼
《菖蒲画花瓶》
明治時代
個人蔵
(参考展示)



根本焼
《唐子文蓋付飯茶碗》
明治時代
(参考展示)

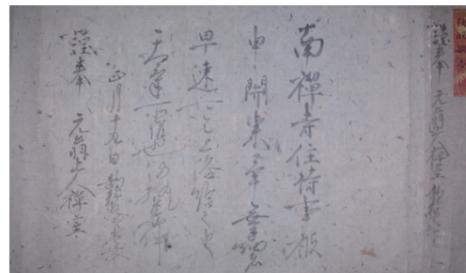


唐子文(部分)

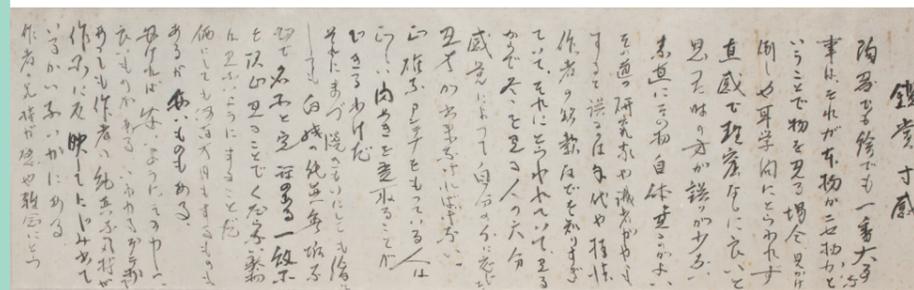
6 ことばを味わう

天皇の意向を記した奉書形式の文書である綸旨。後醍醐天皇綸旨は、永保寺が鎌倉・室町幕府や朝廷から庇護を受けて隆盛の道を歩んできたことを示す貴重な古文書資料です。

また、荒川豊蔵書《鑑賞寸感》は、長さ2mを超える資料で、「鑑賞」をめぐる豊蔵自身の想いが、丁寧に紡がれています。歴史とともに大切に保存されてきた文字の資料。肉筆の文字ならではのことばの力を味わうことができます。



多治見市有形文化財「永保寺文書」
《後醍醐天皇綸旨》(部分) 鎌倉時代
永保寺蔵(会期中展示入替あり)



《鑑賞寸感》(部分) 荒川豊蔵書 多治見市美濃焼ミュージアム蔵(会期中展示入替あり)